

CQ かつがし  
JA2YDX



ようこそ JA2YDX  
春日井無線クラブへ

No.641. OCT. 2024

春日井アマチュア無線クラブ



## 春日井秋のバラ展・バラの栽培講習会のご案内

J021KG 北 健司  
J020TZ 北 志津江

### ○第73回 春日井市 秋のバラ展

場 所：春日井市都市緑化植物園 緑の相談所 展示ホール

開催日：令和6年10月26日(土)、27日(日) (最終日は16時まで)

今年も秋のバラ展を開催いたします。お誘いあわせて是非いらしてください。

Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention

# 第73回 秋のバラ展

Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention Rose Convention



## 春日井市都市緑化植物園 展示室

住所：春日井市細野町3249番地1  
電話：(0568)92-8711

2024年10月26日(土) 午前10:00～午後4:30  
2024年10月27日(日) 午前 9:00～午後4:00

入場無料：最終日は午後4時終了となりますのでご注意ください

春日井ばら会 

### ○ばらの栽培講習会

テーマ：「秋から冬の管理」、「初めてのバラ作り」

場 所：春日井市都市緑化植物園 緑の相談所 講習室

講習日：令和6年11月2日(土) AM9:30～12:00

費 用：250円(定員30名)

お問い合わせ、お申し込みは春日井市都市緑化植物園 TEL:0568-92-8700 まで



9月22日 当クラブのフィールドミーティングがJO2IKG 北農場にて開催されました。今回も盛り上がりました。



JS2NQK(左)と JM2BBW



JA2CAY(左)と JS2PAD



たわわに実ったブドウ各局にと収穫  
JO2IKG と JO2OTZ



洗って冷やして各局へ凄く甘かったです



12時だよ全員集合



9月29日東海ハムの祭典が名古屋市公会堂で開催されました。  
当クラブも参加し、ジャンク市も盛大でしたね、売り上げの一部を当クラブに寄附して頂き有難うございました。



抽選会



ジャンク市



何か「めぼしい」物はないかと  
覗き込むお客さん



店番 看板娘と看板爺



## 第5章 戦時下の情勢

### 第1節 陸軍工廠

**戦時体制への移行** 大正3年(1914)に始まった第一次世界大戦は、イギリス・ロシア・フランスを中心とする連合国とドイツ・オーストリア・トルコを中心とする同盟国の対立がヨーロッパ全土を巻き込んで世界大戦となっていった。日本は、連合国側について参戦することを決め、陸軍は中国の山東半島のドイツ領を占領し、海軍は太平洋ドイツ領南洋諸島を占領した。青島等で俘虜(捕虜)になったドイツ兵の一部は、名古屋俘虜収容所(現愛知県立旭丘高校の校地)に収容された。名古屋俘虜収容所の業務報告書(名古屋市政資料館蔵)には、当時の食事の献立表や郵便物、収容所内のスポーツ・音楽活動、収容所外の就労等の記録が残されており、中には守山の龍泉寺における散歩風景や勝川における水泳風景の写真も残されている。

第一次世界大戦は、日本経済に史上最大の好景気をもたらした。戦場となったヨーロッパの交戦国では生産・供給活動が滞ってしまい、これまでヨーロッパの商品が圧倒的な割合を占めていたアジア市場で日本製品の供給が急激に増加していった。また、ヨーロッパの交戦国への商品供給も急増して、日本経済は異常な活況を見せ、成金と呼ばれる新興企業の経営者も登場した。大戦中の日本の輸出額は、大正3年(1914)の6億円から大正7年(1918)には20億円へと3倍に増加し、貿易収支・貿易外収支を合わせた国際収支は28億円の黒字となっている。工業生産額も、13億円から65億円へと5倍に増加している。

こうした好景気も大戦の終結によってヨーロッパの製造業が復旧してくると、日本製品の過剰生産から商品の滞貨が始まり、操業短縮や企業の倒産が起きてきた。また、それら企業に資金を貸し付けていた銀行の取り立て不能(こげつき)と不景気の連鎖が発生して恐慌となっていった。好景気が継続することを前提に生産拡大のための設備投資や原材料の輸入をしていた日本の企業は、貿易商や製造業、銀行などの倒産が続き、経営基盤の弱い中小銀行は淘汰され、大銀行に預金が集中して、三井や三菱、住友、安田、第一の五大銀行の産業支配力は強化されていった。

当市では、大正12年(1923)から大正13年(1924)に、農産銀行と尾三銀行の2行が休業した。農産銀行は大正元年(1912)に設立し、大曾根に本店、勝川や守山、篠木、高蔵寺に支店を設置していた。第一次大戦後の不景気を乗り切ることができず、安田銀行に救済を求めるが、安田銀行は名古屋に系列の支店を持っていなかったため、安田銀行系列となっていた岐阜県の大垣共立銀行が引き受けることになった。『大垣共立銀行小史』によると、同行は農産銀行の店舗があった大曾根や勝川、清水、岩倉に支店を、川島や高蔵寺、鳥居松、西春日井に出張所を設置した。また、『高蔵寺町誌』によると、農産銀行の休業を機に、高蔵寺や玉野、気噴に信用購買組合が設置されている。

大正12年（1923）9月1日に発生した関東大震災は、東京や横浜を火の海とし、10万人以上の死者や行方不明者をはじめ、損害家屋62万戸、被害総額100億円という大打撃を日本経済に与えた。昭和2年（1927）に、国内で金融恐慌が発生し、昭和4年（1929）にニューヨークの株式市場の大暴落から世界恐慌となっていた。昭和5年（1930）には、生糸価格の暴落と日本経済への打撃が続き、また、農作物の豊作による価格下落が農村に深刻な打撃を与えた。経済不況の中、都市では労働者の賃上げ要求や賃下げ・解雇反対を求める争議（ストライキ）が各地で起こり、労働運動は広がりを見せた。

経済不況の打撃は、商工業だけでなく農業にも及んだ。近代的産業の発展がみられた都市に比べて、農村の近代化は進んでいなかった。第一次世界大戦による好景気は、農業人口の減少と工業人口の増加という変化をもたらした一方、農業労働力の減少は米不足と米価の高騰をもたらした。大戦終了後も、シベリア出兵が決定されたため、大地主や米穀商人の買い占めにより、米価はさらに上昇し、大正7年（1918）に富山県で発生した米騒動は全国に広がり、軍隊が出動する騒ぎになった。

昭和6年（1931）9月18日に、満州（中国東北部）に駐屯していた関東軍の一部が奉天北方の柳条湖<sup>りょうじょうこ</sup>付近で満鉄（南満州鉄道）の線路を爆破し、中国側が行ったと主張して中国への軍事行動を開始した。いわゆる満州事変である。ここから昭和20年（1945）まで、15年間続くアジア・太平洋戦争へ突入していく。昭和7年（1932）3月1日に、満州国の建国が宣言された。10月2日に国際連盟が派遣したリットン調査団報告書が公表され、その内容は満州における日本の権益は認めるものの、日本軍の撤退と新しい自治政府の樹立を求めるものであった。国内では、日本の利権や権益を侵害するものとしてリットン調査団と国際連盟を非難する声が高まった。昭和8年（1933）3月27日に、日本は国際連盟脱退を通告し、経済危機に加えて、国際的に孤立した状態に陥った。

昭和12年（1937）7月7日に、北京南西郊外の盧溝橋<sup>ろこうきょう</sup>付近で夜間演習をしていた日本軍と中国軍との間に発砲・衝突事件が発生して日中全面戦争が始まった。日本にもたらしたものは軍備の増強と国内の戦時体制づくりであった。昭和12年（1937）に軍機保護法が改正され、軍事上の秘密を憲兵・特別高等警察が厳しく取り締まることになり、戦費はこれまで一般会計から支出されていたが、日中戦争以降は臨時軍事費特別会計が設置されて戦時体制に移行し、巨額の戦費を使うことができるようになった。当市域に関する主な臨時軍事費は、鳥居松製造所や鷹来製造所、兵器補給廠（高蔵寺）等の設置費と維持費であった。

市民生活に係るものとしては、国民精神総動員運動がある。戦時体制を強化・維持するために衣食住をはじめ、生活に必要な物資が配給制・切符制となり、戦時国債の割り当て、金属回収・犬供出まで行われるようになっていった。また、軍事力増強のため成人男子の出征が続き、軍需工場をはじめ工場労働者や農村などの生産現場の労働力不足となった。それを補うために、国家総動員法や国民職業能力申告令、国民徴用令などが次々と出された。明治以来、戦争は軍隊が海外で行うものであり、国民生活は平時の延長で大きな変化はなかったが、ここに来て全ての国民は戦争が終わるまで戦争を支えるための行動を強制されるようになった。

**陸軍工廠の設置** 春日井市誕生の原点として、名古屋陸軍造兵廠鳥居松製造所（通称鳥居松工廠）

と鷹来製造所（通称鷹来工廠）の設置があった。工廠は、陸軍直営の兵器製造工場であり、『名古屋陸軍造兵廠史・陸軍航空工廠史』によると、最終的に名古屋陸軍造兵廠には7つの製造所（工廠）が設置されている（表2-5-1）。鳥居松工廠と鷹来工廠の敷地面積は、これまでになく広大であった。鳥居松工廠の最盛期の従業員数は約1万1,000人で、工廠の中では最多であった。鷹来工廠の従業員数は約4,000人であった。

表2-5-1 名古屋陸軍造兵廠

製造所名(所在)	設置年	情勢	主な生産兵器
熱田製造所(名古屋)	明治37年(1904)	日露戦争	車両、器具、材料、火炮
千種製造所(名古屋)	大正9年(1920)	第一次世界大戦	小銃、銃剣、機関銃
高蔵製造所(名古屋)	昭和12年(1937)	日中戦争	薬莖
鳥居松製造所(春日井)	昭和14年(1939)	日中戦争	九九式小銃、拳銃
鷹来製造所(春日井)	昭和16年(1941)	日中戦争	7.7m小銃弾(実包)
柳津製造所(岐阜)	昭和19年(1944)	太平洋戦争	(熱田・高蔵製造所の疎開工場)
楠製造所(三重)	昭和19年(1944)	太平洋戦争	(千種製造所の疎開工場)

(『名古屋陸軍造兵廠史・陸軍航空工廠史』1986)

愛知県に陸軍直営の兵器工場は、次の順で設置された(表2-5-1)。明治37年(1904)の日露戦争時に、陸軍は鉄道車両製造所から名古屋市熱田区六野1・2丁目の土地を買収し、東京砲兵工廠熱田兵器製造所を発足させている。大正4年(1915)の第一次世界大戦中には、大阪砲兵工廠名古屋兵器製造所が熱田兵器製造所の北隣に設置された。ほぼ同じ場所に設置されたにもかかわらず、それぞれが独立したものになった理由は、熱田兵器製造所が銃器などを生産していた東京砲兵工廠であった一方、名古屋兵器製造所は大砲などを生産していた大阪砲兵工廠の分工場として設置されたためであった。

熱田兵器製造所は、第一次世界大戦になると、航空機生産という新たな任務が加わることになり、ルノーやサルムソン、BMWなど、ヨーロッパの発動機メーカーの指導を受ける陸軍航空機の生産拠点となった。大正9年(1920)に、航空機増産のため東京砲兵工廠千種機器製造所が名古屋市千種区北千種町に設置された。これにより、熱田製造所で航空機の機体を、千種機器製造所で航空機の発動機(エンジン)を製造する体制が整い、各務原飛行場とともに名古屋は陸軍航空機技術開発の拠点となっていった。

昭和12年(1937)に日中戦争が始まると、名古屋陸軍造兵廠の再編が始まり、同年に高蔵製造所が設置され、昭和14年(1939)に千種兵器製造所から銃器製造部門が分離独立して、鳥居松製造所が設置された。昭和16年(1941)に、高蔵製造所から鷹来製造所が分離独立して、名古屋陸軍造兵廠は、熱田、千種、高蔵、鳥居松、鷹来の5つの製造所の体制となった。当市域は、鳥居松製造所や鷹来製造所、兵器補給廠高蔵寺部隊の設置によって軍事上重要な地域となった。

**鳥居松製造所の誕生** 陸軍は、小倉造兵廠と名古屋造兵廠を九九式小銃の大量生産をする拠点とした。名古屋造兵廠は、千種製造所の銃器製造部門を鳥居松村に移転拡張するため、鳥居松製造所を設置することとした。鳥居松製造所は、日中戦争により兵器増産のために設置された臨時製造所であった。昭和13年(1938)10月15日に、鳥居松村と用地買収交渉を始め、10月29日に契約が成立し



た。敷地の造成には、庄内川の川砂が使われ、そのために中央本線鳥居松駅（現JR春日井駅）から南に線路が敷かれ、堤防には川砂を積み込むための設備が造られた。昭和14年（1939）5月1日に、工具工場として第二工場が完成し、兵器を製造するための刃具や工具などの生産が始まったが、この段階では、まだ千種製造所鳥居松工場として工場長以下の57人が転属して業務を開始していた。昭和14年（1939）8月1日に、鳥居松製造所が開設された。

鳥居松製造所の設置をきっかけに、鷹来製造所や名古屋陸軍兵器補給廠（春日井分廠・鳥居松出張所・鷹来出張所・大泉寺集積所）が設置され、陸軍施設が拡大して、当市域に軍需産業の集約が進んでいった。

**鷹来製造所の誕生** 昭和15年（1940）1月に、九九式実包（銃弾と薬莖）の製造所建設用地が安城、蟹江、鷹来の中から鷹来村に決定した。用地買収の面積は26万坪であり、20万坪の工場から約800m離れた西山の丘陵地に火薬工場が計画されていた。敷地内の幹線道路には、主要工場と本館（現名城大学農学部農場の本館）を結ぶ地下道が1km建設された。物資の輸送用に中央本線鳥居松駅から軍用の引込線が敷設された（図2-5-1）。現在、国道155号の西山交差点近くに架かる鉄橋がその名残として残っている。

昭和16年（1941）6月1日に、鷹来製造所は名古屋の高蔵製造所の分工場として発足した。鷹来製造所の建設とともに、従業員用の住宅が定野山や北山に建設された。昭和16年（1941）12月1日に、鷹来製造所が開設された。鳥居松製造所の工員数は昭和16年（1941）が増加のピークであったが、鷹来製造所の工員数は、翌17年（1942）から増加が始まった。7.7mm実包の月間生産目標の2,000万発を達成するには、約4,000人の雇員を含む従業員を受け入れる必要があった。『名古屋陸軍造兵廠史・陸軍航空

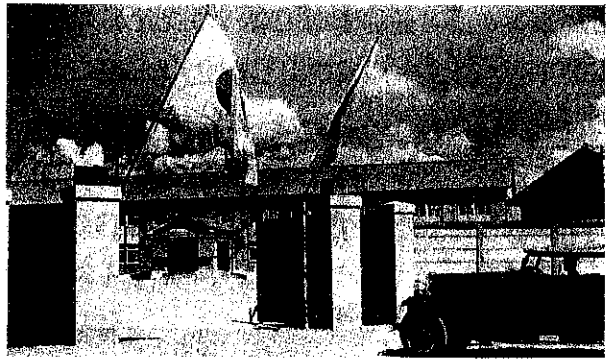


写真2-5-1 鳥居松製造所正面（昭和14年8月28日）  
（名古屋陸軍造兵廠記念碑建立委員会『碑の建立と思い出』1986年）



図2-5-1 引込線が描かれた鷹来製造所  
（5万分の一地形図「名古屋一号」参謀本部昭和20年発行）



写真2-5-2 国道155号に架かる鉄橋



『工廠史』によると、昭和17年（1942）4月から受け入れが始まり、石川、富山、岐阜、愛知、三重、静岡、新潟、長野の各県から受け入れた。鷹来製造所は、7.7mm実包の生産を目的に設置されたが、昭和19年（1944）11月から風船爆弾の生産も行うことになった。

**名古屋陸軍兵器補給廠高蔵寺部隊** 陸軍兵器補給廠は、造兵廠で製造された兵器を保管し、戦地や各部隊に配送する施設であった。名古屋兵器補給廠の本部は千種に置かれ、愛知県内外に分廠や出張所が置かれていた。昭和15年（1940）に、高蔵寺兵器補給廠は高蔵寺町木附に設置され、砲弾の薬莖に火薬を詰める業務も行っていった。高蔵寺駅から木附までは専用の引込線が敷かれ、小型の蒸気機関車 C12が貨車を牽引していた（図2-5-2）。



写真2-5-3 鷹来工廠跡地に建てられた記念碑



写真2-5-4 名古屋陸軍兵器補給廠高蔵寺部隊の表札

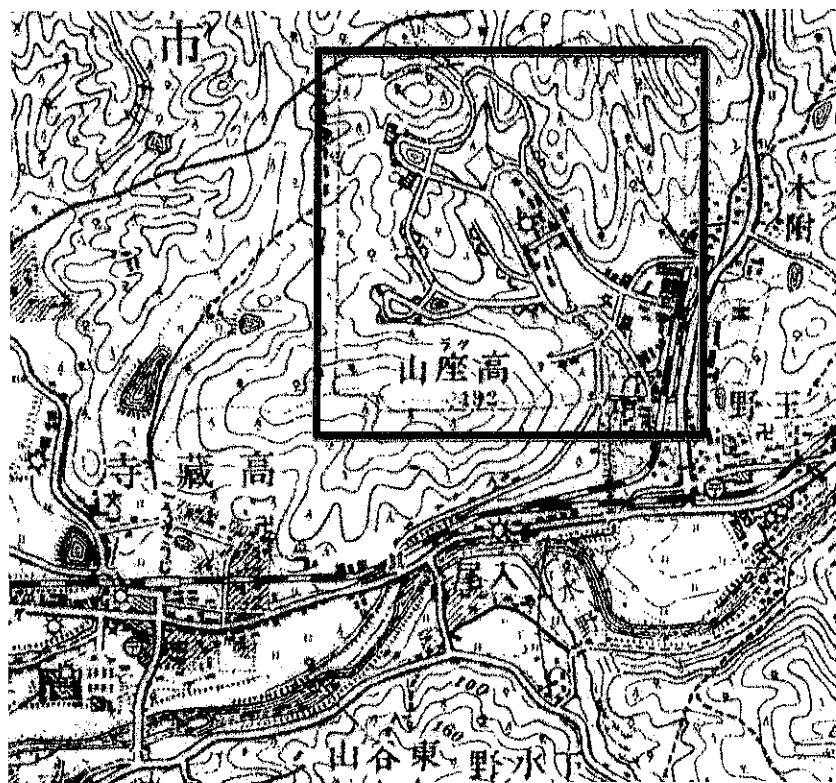


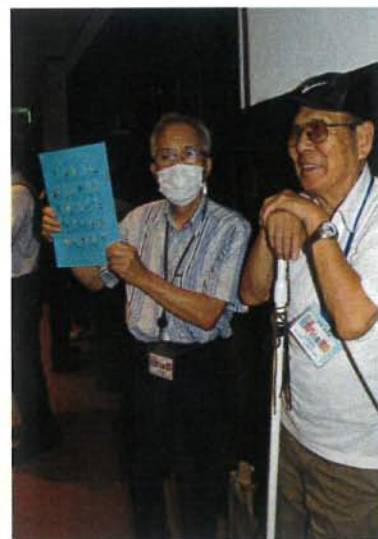
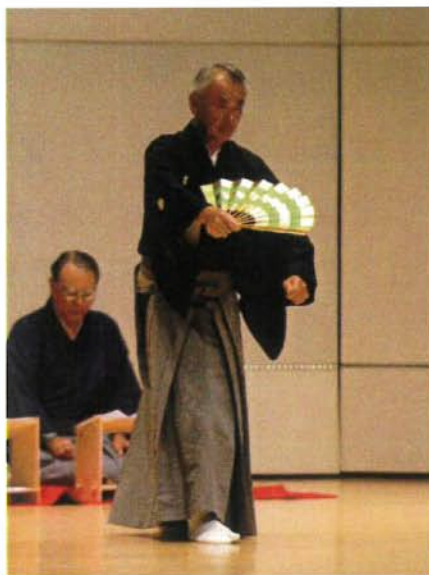
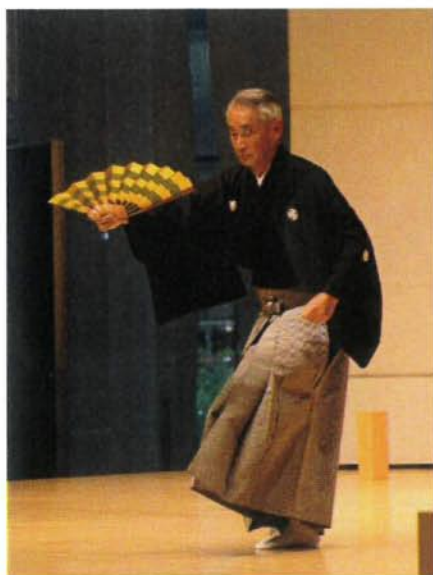
図2-5-2 引込線が描かれた高蔵寺兵器補給廠跡  
 (5万分の一地形図「瀬戸」国土地理院昭和35年発行に加筆)

# INFORMATIONS FROM KASUGAI CLUB

## 編 集 余 記

◎9月29日JARL東海支部大会が行われました。ん十年と総会に参加して初めて抽選に当たりました。景品はファイル2枚で和文、欧文で呼び方とでも言うのでしょうか?「あ」朝日の「あ」、「A」アルファと印刷されていました。

◎JO2IKG北さんの「能」の舞このコーナーでの紹介失礼かと思いますが、記載させていただきます。写真提供はJS2NGK局です。



CQかすがい

NO、641号

令和06年10月06日 (毎月1回発行)

発行 JARL春日井アマチュア無線クラブ

発行者 JA2EQ・高蔵寺町 JA2IC・ことぶき町 JA2ARN・神屋町  
JA2CAY・小木田町 JA2DRK・守山区 JA2GBA・勝川町

編集、印刷 JA2IDZ・守山区 JA2LAZ・神屋町 JA2SZX・高蔵寺町  
JI2DQT・高蔵寺町 JK2RGS・神領町 JH2CHI・細野町  
JO2IKG・藤山台 JS2NQG・高蔵寺町